

株式会社フジチュウ

[住所] 名古屋市千川区八家町3-25

[事業内容] エレベーター・エスカレーター部品製造

[URL] <https://www.fujityu.co.jp>

代表取締役社長 加藤 忠晴 氏

株式会社フジチュウ



インタビュー

Interview

東日本大震災後、社内でBCPを策定し、毎年改善に取り組んでいる、(株)フジチュウ 代表取締役 加藤 忠晴氏にお話しを伺いました。

Q BCPに取り組まれたきっかけを教えてください。

A 東日本大震災後に弊社のBCPについて考えたことがきっかけです。これまでもBCPという言葉は知っていましたが、具体的なイメージがよく掴めていませんでした。そうした中で、(公財)名古屋産業振興公社のBCPに関するセミナーに参加したところ、自社のBCP策定について無料で専門家を派遣していただける制度を知り、申込みすることにしました。

Q BCP策定にあたり、どのように取り組んでいかれましたか。

A 月に一度、専門家(中小企業診断士)にお越しいただいて、弊社の幹部数名とともに、約5カ月間かけて策定しました。具体的には、愛知県が公開している「あいちBCPモデル」に基づいた内容を自社に置き換える形で進めていきました。弊社はエレベーター部品製造を行なっていますが、災害時にも取引先への部品供給に影響が出ないよう、工場と間接部門ごとの行動要領を作成して、実効性のある内容にしていきました。

Q BCPを定着させていくために、どのように取り組まれましたか。

A BCPの教育や訓練だけでなく、継続的な点検と改善に取り組んでいきました。弊社では毎年3月にBCPの点検を行ない、工場設備更新に伴う避難経路な



▲工場内での取り組み

東日本大震災後、工場内設備に落下防止柵(赤色囲み部分)を取り付けました。これにより、日常の作業事故防止にも繋がっているとあります。

どの見直しや社員・取引先の緊急連絡先などを更新し、現在のBCPは第15版となっています。また、現場力を高めるために、名商の安否確認アプリケーションを導入したほか、緊急地震速報は震度3以上で発報する設定にして、平均で年1回は実際の地震でBCPを発動しています。BCPは生産現場での改善活動と同様に、会社全体で取り組んでいくことが重要だと考え、また、この取り組みが取引先の信頼にも繋がると思います。

Q 今後の課題を教えてください。

A 実際に被災した際は、取引先の協力なしに復旧は難しいことから、BCPを取引先と共有していく必要性を感じています。弊社では主要納品先にBCP策定状況を開示しており、仕入先などにも情報交換を呼び掛けています。サプライチェーン全体でBCP策定が進むように、協力会社の勉強会にも講師として参加するなど、積極的に関わるように努めています。

ご報告

能登事業者支援センターへの経営指導員の派遣について

能登半島地震を受けて、日本商工会議所が全国の商工会議所に呼びかけ、職員の応援派遣を行なうことになりました。名商からは3月11日より3日間、石川県の「のと里山空港」内に設置された「能登事業者支援センター」において、被災事業者の経営相談、補助金相談対応および補助金申請サポートなどを行ないました。事業者の各種支援策への関心は高く、事業の継続に向けた多くの相談が寄せられました。



▲能登事業者支援センターの様子